

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 仁摩福祉会	代表者	石橋 秀利	法人・ 事業所 の特徴	大田市の中心にあり、海、山、川が近くにあり街中に出やすい環境で、祭り事や催事に出掛けやすい。家庭的な雰囲気の事業所で、季節の食材にこだわり健康に配慮した手作りの食事を提供している。また、月の行事を大切に、利用者、家族と一緒にやっている。
事業所名	小規模多機能居宅介護事業者えがお	管理者	渡辺 絵利子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	3人	人	人	1人	人	人	3人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員、委員へ具体的にわかりやすい評価の説明を行う。職員へ目標を共有し、達成できるようにミーティングで発信する。	委員様へわかりやすいように、目標等をカラーにする。職員にはアンケート方式で実施しミーティングで発信共有する事ができた。	職員皆さんで自己評価をしているのが確認できました。やっているのはわかるが、こちら側がどのように評価をして良いかわからない。	自己評価をミーティング等で理解し年間を通じて実践できているか振り返るようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	玄関に2ヶ月に1回行事の写真を張り出す。施設回りの清掃を定期的に行う。職員の対応や言葉使いをホスピタリティ研修として学ぶ。	各担当が定期的に行事の写真を張り出す事が出来た。施設回りの草刈りも実施しホスピタリティ研修を全員が参加する事ができた。	コロナ禍の為利用する事ができないのでわからない所がある。家族の相談等気軽にでき、頼りになっています。職員はあいさつ等きちんとできていると感じています。	玄関に行事の写真の張り出しは継続し、施設回りの清掃を定期的に行う。事業所の整理整頓を心掛ける。
C. 事業所と地域のかかわり	新規利用者の地域の民生委員に挨拶に行き情報収集を行い行事等に参加する。地域へ発信できる取り組みを行う。	新規利用者は、地域の民生委員に挨拶に行く事が出来た。地域発信として、5月奉仕活動に参加する。大田1中の講和に講師として参加した。仁摩福祉会の広報を配布する事ができた。	コロナ禍の為地域行事やイベントが中止になり地域への関わりが少なくなっている。出来る事を実施しておられると思う。みまもり隊に参加して頂き助かっています。	地域ケア会議に参加し、各地域で心配される情報を収集し共有していく。感染状況を見極めながら地域の方、家族の方を交えたイベントを開催する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	新型コロナウイルスの影響を見ながら地域行事に参加する。地域の見守り隊に参加する。	地元祭り、外出支援、各地域の文化祭等へ出掛ける事が出来た。みまもり隊へ参加する事が出来た。買い物や美容室への外出支援をする事ができた。	みまもり隊に参加して頂き助かっています。今後も継続して欲しいと思っています。コロナ禍で行事等参加難しいと思いますが、考えて色々参加されておられると思います。	利用者、家族と積極的に情報交換を行い地域と関わりを持てるように各担当が情報を収集し地域の行事に参加する。

<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<p>運営推進委員様より情報を頂き、関わりができるような取り組みをミーティングで検証する。</p>	<p>地元の文化祭へ、出展の声を掛けて頂き参加する事が出来た。コロナ禍の為行事活動等を直接見てもらう事が難しかった為会議の際写真を配布し活動を理解してもらう事ができた。</p>	<p>コロナ禍で会議が書面開催になったりして十分な話は難しく地域でも開催が少なかった。</p>	<p>運営推進会議から出た意見を参考に地域との交流を実施して行く。積極的に情報を収集していく。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>災害時事業者は何ができるか明確化にして、地域へ発信する取り組みを考え実施する。</p>	<p>11月に運営推進委員様も一緒に総合防災訓練を実施する事ができた。行政へ福祉避難所として訓練の実施の相談をおこなっているがまだ明確な回答がない。</p>	<p>コロナ禍もあり、地域の方を交えた活動が出来なかった。事業所で十分な活動は出来ていると思う。災害についても地域別の今後考えて行ければ良いと思います。</p>	<p>引き続き運営推進委員様へ総合防災訓練に参加して頂く。地域の災害訓練の情報収集をし、福祉避難所として地域へ発信できる取り組みを考え発信して行く。</p>